

とりあえず「まけてえな」。

「このレタス、だいぶしなびているやないの。これ、正規の値段で売るつもり？」。百貨店の食料品売場で中年のセレブな感じのおばちゃんか店員に値切っている。

値切ることは大阪では**美德**！値切らないでものを買うと、「あんたアホやなあ」とバカにされる。

日本橋で電化製品を買うとなると、定価はあつてないようなもの。客は初めから値段付けなど無視してかかる。「兄ちゃん、これなんぼになる？」。店員はそろばんを弾いて「この商品はあんまりまけられまへんな」。「あんまり言うことは少しはまるんやな？」。「へえ、ちょっとは勉強します」。「ほな三割、まけてえな」。「三割も勉強したら、ウチ潰れますがな」。「ほな二・五割り引き」。「あきまへん。ウチ首吊らなあきまへん」。「二割引きでどないや！」。「うーん」。二割とおまけにマウス付けて！。おまけを要求する強者までいる。

高い金額のものならともかく、安いものまで**値切るのが商人の街**、大阪の真骨頂！大根一本、豆腐一丁、値段のついたものなら何でも値切る。「おっちゃん、大根二本買うさかい、人参一本、サービスしてえな」はまだいい方として、「大根一本、人参一本、白菜半分で一五五円か。おっちゃん、けりのいいとこで百円にしとこ！ええやろ」。「あきまへん！」。「おっちゃん。男やろ。もつと剛氣にいかんとモテへんで」。「モテへんでもよろし。まけられまへん」。「そんなこと言わんと、とりあえずまけてえな」。甘えた調子で言うのがコツ。成功してもしなくても、**値切ること**、大阪ではそれが挨拶！